

中国語における *dou* '都' による名詞句の全称量化について

徐佩伶

(九州大学大学院)

hairei@lit.kyushu-u.ac.jp

キーワード：*dou* 量化、局所性、空範疇、再述代名詞、述語量化

1. はじめに

本稿では、中国語における、全称量化される名詞句と全称量化子 *dou* の統語関係を考察する。まず、(1)の事実を見てみよう。(1a)は、*dou* が含まれない文であり、(1b)は *dou* が含まれる文であるが、(1a)と(1b)では次のように解釈が異なる。

- (1) a. C 班 的 學 生 來 了。
C ban de xuesheng lai le.
C 組 の 学 生 来 了 了
'C組の学生が来た。'
' x (x = student who belongs to C class) [x came]'
- b. C 班 的 學 生 都 來 了。
C ban de xuesheng *dou* lai le.
C 組 の 学 生 DOU 来 了 了
'C組の学生『全員』が来た。'
' x (x = student who belongs to C class) [x came]'

dou のない(1a)は、*C ban de xuesheng* 'C組の学生' 「C組の学生」が来たというような *x* が一人でも存在するという状況であれば、容認可能であるが、一方、*dou* のある(1b)は、C組の学生が『全員』来た、という状況でなければ、容認不可能である。この2つの文の解釈の違いは *dou* の有無に関わっており、(1b)における *C ban de xuesheng* が「C組の学生『全員』」と解釈されるのは、全称量化子 *dou* があるためである。以下、こ

の場合の名詞句 *C ban de xuesheng* を全称量化の restriction NP と呼ぶことにする。

1.1. 左方条件

この全称量化の restriction NP は、*dou* の左側に現れなければならない (Li and Thompson 1981, Lee 1986, Cheng 1991, 1995, Wu 1999)。たとえば、(2)における全称量化の restriction NP *C ban de xuesheng* 'C組の学生' は、(2a)のような主語位置や(2b, c)のような preverbal 位置にある場合、「C組の学生『全員』」という全称解釈が可能であるが、(2d)のように、目的語位置にある場合、*dou* と共起していても、全称解釈ができない。

- (2) a. C 班 的 學 生 都 認 識 小 明。
C ban de xuesheng dou renshi Xiaoming.
C 組 の 学 生 DOU 知 る Xiaoming
'C組の学生が『全員』Xiaomingを知っている。'
- b. C 班 的 學 生 , 小 明 都 認 識 *e* 。
C ban de xuesheng, Xiaoming dou renshi e.
C 組 の 学 生 Xiaoming DOU 知 る
'C組の学生について、Xiaomingが『全員』を知っている。'
- c. 小 明 C 班 的 學 生 都 認 識 *e* 。
Xiaoming C ban de xuesheng dou renshi e.
Xiaoming C 組 の 学 生 DOU 知 る
'XiaomingがC組の学生『全員』を知っている。'
- d. *小 明 都 認 識 C 班 的 學 生 。
**Xiaoming dou renshi C ban de xuesheng.*
Xiaoming DOU 知 る C 組 の 学 生
'XiaomingがC組の学生『全員』を知っている。'

このように、全称量化の restriction NP が *dou* の左方になれば、*dou* によって量化されないという事実から、*dou* 量化は左方条件に關与していると一般に言われている。しかし、この左方条件は、*dou* による一般名詞句の量化にとって必要条件であって、十分条件ではない。

1.2. 局所性

左方条件に関わる観察に加えて、*dou* 量化は局所的であるという事実も観察されている。(3a, b)を比較してみよう。(3a)は話題化構文であり、(3b)は埋め込み節を含む文である。

(3) (= Wu 1999:(3))

a. 這些 學生_{*i*}, 我 都 喜歡 *t_i*。

Zhexie xuesheng_i, wo *dou* xihuan *t_i*.

これら 学生 私 DOU 好きだ

'これらの学生について、私は『皆』が好きだ。'

b. *這些 學生 知道 我 都 喜歡 張三。

**Zhexie xuesheng* zhidao [wo *dou* xihuan Zhangsan]

これら 学生 知る 私 DOU 好きだ Zhangsan

'これらの学生は『皆』私が Zhangsan を好きだと知っている¹。'

(3a)では、restriction NP *zhexie xuesheng* 'これらの学生'が *dou* によって量化され、「これらの学生『全員』」と解釈されるが、一方、(3b)では、主節にある restriction NP *zhexie xuesheng* は埋め込み節にある *dou* によって量化されず、「これらの学生『全員』」とは解釈されない。この事実から、*dou* 量化が局所的であり、節を越えて先行する名詞句は量化しないということが分かる。

1.3. 節を越える *dou* 量化

ところが、*dou* 量化が上述したような局所性を示さない場合がある。具体例を(4a)に示す。(4a)では *dou* は埋め込み節の中にあるが、話題化位置にある restriction NP *zhexie xuesheng* 'これらの学生'は、埋め込み節にある *dou* によって全称量化される。一方、(4b)に示すように、*dou* が主節にある場合、*dou* 量化に局所性が見られ、*dou* が話題化位置にある restriction NP *Zhexie xuesheng* を全称量化しない。

¹ (3)と(4)における Wu (1999)の引用例の中国語訳、日本語訳は筆者によるものである。

(4) (= Wu 1999:(4))

a. 這些 學生_i, 我 相信 [李四 都 喜歡 t_i].

Zhexie xuesheng_i, wo xiangxin [Lisi **dou** xihuan t_i].

これら 学生 私 信じる Lisi DOU 好きだ

'これらの学生について、私は Lisi が『皆』のことを好きだと信じている。'

b. *這些 學生_i, 我 都 相信 [李四 喜歡 t_i].

*Zhexie xuesheng_i, wo **dou** xiangxin [Lisi xihuan t_i].

これら 学生 私 DOU 信じる Lisi 好きだ

'これらの学生について、私は Lisi が『皆』のことを好きだと信じている。'

この(4a, b)の相違から、Wu (1999)、湯 (2000)は、節を越える *dou* 量化について、次のように一般化した。

- (5) Cross-clausal *dou*-quantification is only possible when *dou* and the NP it quantifies are base-generated in the same clause.
(節を越える *dou* 量化は、*dou* に量化される名詞句が *dou* と同じ節に基底生成されている場合のみ可能である。)

1.4 反例と主張

しかし、(5)に反して、全称量化される名詞句が *dou* と同じ節に基底生成されていなくても、節を越える *dou* 量化が可能な場合がある。それは、*dou* が左方転位構文((6))や典型的な中国語タイプの話題化構文((7))に生起する場合である²。

(6) 那些 學生, 小明 認為 [我 都 認識 他們]。

Neixie xuesheng, Xiaoming renwei [wo **dou** renshi tamen]。

あれら 学生 Xiaoming 思う 私 DOU 知る 彼ら

'あれらの学生について、私が『彼らの誰でも』を知っていると

²典型的な中国語タイプの話題化構文とは、話題化要素が必ずしも文中にそれと同一指示要素を持つ必要がないような構文である。詳しくは Xu (1985)を参照。

小明が思っている。'

- (7) a. 那些 水果, 小明 都 只 吃 皮。
Neixie shuiguo, Xiaoming *dou* zhi chi pi
あれら 果物 Xiaoming DOU だけ 食べる 皮
'あれらの果物について、小明が『どの果物でも』皮だけ食べる。'
- b. 那些 水果, 我 知道 [小明 都 只 吃 皮]。
Neixie shuiguo, wo zhidao Xiaoming *dou* zhi chi pi.
あれら 果物 私 知る Xiaoming DOU ただ 食べる 皮
'あれらの果物について、小明が『どの果物でも』皮だけ食べる
ということが分かる。'

(6)(7)では、話題化位置にある名詞句は主節内に「戻す」位置がない。つまり、(6)では、*renshi* '知っている'の目的語位置に再述代名詞 *tamen* '彼ら'が基底生成され、(7)では *chi* '食べる'の目的語位置に別の名詞句 *pi* '皮'が基底生成されており、したがって、*neixie xuesheng* 'あれらの学生'と *neixie shuiguo* 'あれらの果物'は *dou* と同じ節に基底生成されるとは考えられない。それにもかかわらず、*neixie xuesheng* 'あれらの学生'と *neixie shuiguo* 'あれらの果物'はいずれも *dou* によって全称量化され、それぞれ「あれらの学生について、『誰もが』」、「あれらの果物について、『どの果物でも』皮を食べない」という全称解釈になる。このような事実から、全称量化の restriction NP が *dou* と同じ節に基底生成されなくても、節を越える *dou* 量化が可能であるということがわかる。

本稿では、左方条件を仮定した上で、(5)の一般化を改め、節を越える *dou* 量化について次のように主張する。

- (8) 節を越える *dou* 量化が可能であるために、全称量化の restriction NP は *dou* と同じ節に基底生成されていなくてもよい。ただし、全称量化の restriction NP を義務的に先行詞とする構成素（空範疇、(空の)再述代名詞）が *dou* と同じ節にある述語の語彙特性の要請によって基底生起されていなければならない。

以下(8)の証拠となる事実を提示していく。

2. 基底生成の空範疇

本節では、全称量化の restriction NP が *dou* と同じ節に基底生成されなくてもよいという事実 (*Resultative Expression* と主語指向動詞/目的語指向動詞) を挙げ、そこで全称量化の restriction NP を先行詞とする要素(空範疇など)があると仮定すれば、局所性を示さない(節を越える)*dou* 量化の事実を説明できるということを主張する。

2.1. *Resultative expression* (*de-phrase*) と *dou* の生起

まず、中国語の *resultative expression* を見てみよう。(9)では、括弧の部分がここで言う *resultative expression* であり、この *resultative expression* は *de* '得'によって導かれる補語節の一つである(以下、*de-phrase* と呼ぶ)。

- (9) 他們 開 車 開 得 [很 累]。
Tamen kai che kai DE [hen lei].
彼ら 運転する 車 運転する DE とても 疲れる
'彼らは車の運転でとても疲れている。'

このような構文では、*dou* が *de-phrase* の中に生起することができる。具体例を(10)に示す。(10)では、主節の主語位置にある *tamen* '彼ら'が *dou* によって全称量化され、「『彼らの誰も』が車の運転で疲れている」という解釈になる。

- (10) 他們 開 車 開 得 [都 很 累]。
Tamen kai che kai de [*dou* hen lei].
彼ら 運転する 車 運転する DE DOU とても 疲れる
'彼らの『誰も』が車の運転で疲れている。'

しかし、(10)では、全称量化の restriction NP *tamen* '彼ら'は、主節にある述語 *kai che* '車を運転する'が取る項であるので、主節に基底生成され、*dou* と同じ節に基底生成されるのではない。よって、(10)の場合には、全称量化の restriction NP が *dou* と同じ節に基底生成されなくても、節を越える *dou* 量化が可能であるということが認めざるを得ない。

ただし、このように、全称量化の restriction NP が *dou* と同じ節に基底生成されていなくても節を越える *dou* 量化が成り立つには、ある条件が

必要である。それは、全称量化の restriction NP を先行詞とする要素が *dou* と同じ節に基底生成されなければならないという条件である。

これについて、*resultative expression* と、一見それに類似した表現 *descriptive expression* とを比較してみよう。

descriptive expression は *resultative expression* と同様に、*de* によって導かれる補語節である((11a))。しかし、*descriptive expression* の場合は、(10) のような *resultative expression* の場合とは異なり、*dou* が *de*-phrase に生起しても、主節の主語位置にある名詞句は *dou* によって全称量化されない((11b))。

(11) a. 師父們 理 頭髮 理 得 [很 好]。
 shifumen li toufa li de [hen hao].
 師匠 散髪する 髪 散髪する DE 非常に 良い
 '師匠さんたちが散髪する腕がうまい。'

b. ?師父們^(*) 理 頭髮 理 得 [都 很 好]。
shifumen li toufa li de [*dou* hen hao].
 師匠 散髪する 髪 散髪する DE DOU 非常に 良い
 '師匠さんたちの『誰もが』散髪する腕がうまい。'

この観察について、*dou* 量化に関する(10)と(11b)の違いは、*resultative expression* と *descriptive expression* がそれぞれ異なった構造を持っていることに起因すると考える。Audrey Li (1990)によると、*resultative expression* と *descriptive expression* はともに *de* に後続するものの、その構造には、(12)に示すような違いがある³。

- (12) a. *Resultative expressions* (Audrey Li (1990: 44(6b)))
 NP X V *de* S
 b. *Descriptive expressions* (Audrey Li (1990: 44(6a)))
 NP X V *de* AP

(12a)の構造では、*de* に後続するものが節 S であるのに対し、(12b)の構造

³ 詳しくは、Yen-Hui Audrey Li (1990) 'Single Complementation'. *Order and Constituency in Mandarin Chinese*. を参照。

では、AP である。(12)の構造をさらに詳細に記述したものが、(13)である。

- (13) a. *Resultative expressions* (Audrey Li (1990: 58(29),53(26)))
 [NP1 [X [V1 - de [(NP2) VP2]]]]
 (NP1 と V1 が選択関係をなしている)
 (NP2 は NP1 を C 統御しない(NP1 は NP2 の先行詞となりうる))
- b. *Descriptive expressions* (Audrey Li (1990: 50(17)))
 [s NP X [vp V de AP]]

Audrey Li (1990)によると、(13a)における *de* は節 S を導くものであるのに対し、(13b)における *de* は音韻の挿入規則によって V と AP の間に挿入されるものである。ここで注目してほしいのは、前者の構造では *de* が S を補部にとるので、*de*-phrase([*de* [S]])の中に項が占める位置が存在するが、後者の構造では、*de* は挿入されたものであるので、*de*-phrase ([*de* [AP]])に項が占める位置が存在しないということである。以下では、この構造上の相違が、節を越える *dou* 量化に関わっていることを主張する。

(13a., b)に示した構造に基づき、(10)と(11b)の基底構造をそれぞれ(14a, b)のように仮定する。*resultative expression* の場合、*de*-phrase 中の述語 *hen lei* '大変疲れた'が、その語彙特性により主語位置に項を取り、その項は音形を持たない空範疇であると仮定する。NP2 は、NP1 を先行詞とする空範疇である。(下線部が全称量化される構成素に当たる)

- (14) a. *Resultative expression* (13a)
 [tamen_i [kai che [kai de [e₁ **dou** hen lei]]]]
 [NP1 [X [V1 de [(NP2) VP2]]]]
- b. *Descriptive expression* (13b)
 [s shifumen^(*)₁ li toufa [vp li de **dou** hen hao]]
 [s NP X [vp V de AP]]

(14a)では、主節の主語位置にある *tamen* '彼ら'が *dou* によって全称量化されるが、(14b)では、主節の主語位置にある *shifumen* '師匠さんたち'は *dou* によって全称量化されない。(14a)は、主節にある *tamen* と *de*-phrase 中の *dou* が同じ節に基底生成されていなくても *dou* 量化が可能である、と

いうことを示しているが、(14b)は、*de*-phrase が関わる場合に常に *dou* 量化が可能であるわけではない、ということを示している。以上のことより、(14a, b)に基づき、節を越える *dou* 量化についての条件は次のようなものであると考える。

- (15) 節を越える *dou* 量化が可能であるためには、全称量化の restriction NP が *dou* と同じ節に基底生成されていなくてもよいが、その restriction NP を先行詞とする要素(ここでは空範疇)が *dou* と同じ節に基底生成されていなければならない。

a. $\left[\begin{array}{c} \text{-----} \\ \text{NP}_1 \text{ [s } e_1 \text{ } \underline{\text{dou}} \text{]} \end{array} \right]$

b. $\left[\begin{array}{c} \text{-----} \times \text{---} \\ \text{NP}_1 \text{ [s } \underline{\text{dou}} \text{]} \end{array} \right]$

c. $\left[\begin{array}{c} \text{-----} \times \text{---} \\ \text{NP}_2 \text{ [s } e_1 \text{ } \underline{\text{dou}} \text{]} \end{array} \right]$

(下線部は全称量化される NP を表し、点線は restriction NP と *dou* と同じ節に基底生成される要素の関係付けを表す)

2.2. 主語指向動詞 VS. 目的語指向動詞

この節では、(15)の条件を支持するもう一つの事実、主語指向動詞と目的語指向動詞を含む文における *dou* 量化の事実を挙げる。具体例を(16)に示す。(16)では、*dou* は主動詞 *tanbai* '白状する'、*konggao* '起訴する'に付加しているのではなく、*qu mai* '買いに行く'に付加している。(16a)では、主動詞の主語位置にある *neixie xuesheng* 'あれらの学生'が *dou* があることによって「あれらの学生『全員』」と全称解釈され、(16b)では、主動詞の目的語位置にある *neixie laoshi* 'あれらの先生'は「あれらの先生『全員』」と全称解釈される。

- (16) a. 那些 學生_i 向 老師 坦白 說 [*e_i* 都 去 買
*Neixie xuesheng_i xiang laoshi tanbai shuo [*e_i* dou qu mai*
 あれら 学生 に 先生 白状する 言う DOU 行く 買う
 彩券]。
 caicuan].
 宝くじ
 'あれらの学生が先生に『全員』宝くじを買いに行ったと白状し

た。'

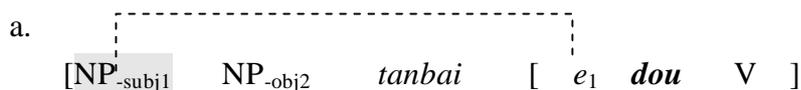
- b. 那些 學生 控告 這些 老師_i [e_i 都 去 買 彩券]
Neixie xuesheng konggao zhexie laoshi_i [e_i dou qu mai caicuan].
あれら 学生 訴える これら 先生 DOU 行く 買う 宝くじ
'あれらの学生がこれらの先生を『全員』宝くじを買いに行った
と訴えた。'

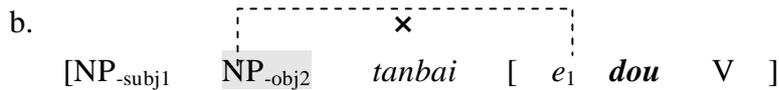
(16a)では、主節の述語 *tanbai* '白状する'は主語指向動詞であり、*qu mai* '買いに行く'の意味上の主語は *tanbai* '白状する'の主語 *neixie xuesheng* 'あれらの学生'である。これに対して、(16b)では、主節の述語 *konggao* '訴える'は目的語指向動詞であり、*qu mai* '買いに行く'の意味上の主語は *konggao* '訴える'の目的語位置にある *zhexie laoshi* である。ここで、*qu mai* の主語位置に空範疇があると仮定し、その空範疇は主節にある名詞句を先行詞とすると考えると、(16)の構造は(17)のようになる。

- (17) a. Neixie xuesheng₁ xiang laoshi₂ tanbai shuo [e₁ dou qu mai caijuan]
b. Neixie xuesheng₁ konggao zhexie laoshi₂ [e₂ dou qu mai caijuan].

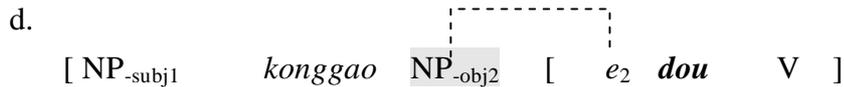
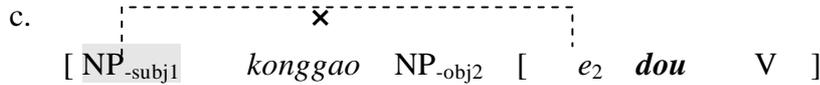
もう一度、(16)の解釈について考えてみよう。(16a)では、全称量化されている名詞句は、主節の述語 *tanbai* の主語位置にある *neixie xuesheng* だけであり、(16b)では、主動詞 *konggao* の目的語位置にある *zhexie laoshi* だけである。つまり、*dou* に先行する名詞句のうち、*dou* によって量化される対象は任意ではなく、*dou* と同じ節に基底生成される要素(空範疇)の先行詞となるものでなければならないのである。その関係を図式化すると、(18)のようになる。

(18) (17a) [主語指向動詞 : *tanbai*]

- a. 
[NP_{-subj1}] NP_{-obj2} *tanbai* [e₁ dou V]



(17b)[目的語指向動詞：konggao]



(18a, d)と(18b, c)の違いは(15)で述べた節を越える *dou* 量化の条件で説明できる。すなわち、全称量化の restriction NP を先行詞とする要素(空範疇)が *dou* と同じ節に基底生成されている場合のみ、節を越える *dou* 量化が可能であるということである。

3. 話題化構文-(空の)再述代名詞

前節まで、*dou* の全称量化の restriction NP が主節の主語位置にある場合について論じてきたが、本節では、その全称量化の restriction NP が話題化位置にある場合について考える。そして、(15)で述べた条件によって、話題化位置にある要素の量化についても説明できることを示す。

まず、(19a, b)を比較してみよう。(19a)は、話題化構文であり、(19b)は左方転位構文である。話題化では、もとの位置が空所になるのに対し、左方転位ではその位置に代名詞、すなわち再述代名詞(Resumptive Pronoun:RP) ((19b)では *tamen* '彼ら') が存在する、という違いがある。

(19) a. 那些 學生, 我 都 認識 *e*。
 Neixie xuesheng, wo *dou* renshi *e*.
 あれら 学生 私 DOU 知る
 'あれらの学生について、私は『皆』を知っている。'

b. 那些 學生₁, 我 都 認識 他們₁。
 Nei xie xuesheng₁, wo *dou* renshi *tamen*₁.
 あれら 学生 私 DOU 知る 彼ら
 'あれらの学生について、私は彼ら『皆』を知っている。'

(19a, b) からわかるように、*dou* は話題化構文・左方転位構文のいずれにおいても生起することが可能であり、話題化位置にある *neixie xuesheng* は *dou* があることによって「あれらの学生『全員』」と解釈される。また、(20)のような、長距離話題化構文や長距離の左方転位の文にも、*dou* が生起できる。

(20) a. 那些 學生, 李四 認為 [我 都 認識 *e*]。
Neixie xuesheng, Lisi renwei [wo *dou* renshi *e*].
あれら 学生 Lisi 思う 私 DOU 知る
'あれらの学生について、Lisi は私が(あれらの学生)『皆』のことを知っていると思っている。'

b. 那些 學生₁, 李四 認為 [我 都 認識 他們]。
Neixie xuesheng₁, Lisi renwei [wo *dou* renshi *tamen₁*].
あれら 学生 Lisi 思う 私 DOU 知る 彼ら
'あれらの学生₁について、Lisi は私が彼ら₁『皆』のことを知っていると思っている。'

(20)における話題化位置にある *neixie xuesheng* は(19)と同様に、*dou* があることによって「あれらの学生『皆』」と解釈される。これらの事実から、話題化位置にある構成素に対する *dou* 量化については、(19b)と(20b)のような左方転位の構文に見られるように、全称量化される名詞句が *dou* と同じ節に基底生成されていなくてもよいということが分かる。

左方転位構文((19b)(20b))、*renshi* '知っている'の目的語位置を *tamen* '彼ら'のような再述代名詞が占めているので、全称量化される名詞句(ここでは話題化位置にある構成素)を先行詞とする「空範疇」が主節に基底生成される場所がないということになる。このことは一見、(15)で述べた、節を越える *dou* 量化の条件の反例になるように見える。しかし、左方転位構文における再述代名詞は、音形を持っているという点を除けば、「もとの位置に基底生成」し、「義務的に先行詞を持つ」という二点において、(15)の節を越える *dou* 量化の条件と矛盾しない。よって、節を越える *dou* 量化の条件において、全称量化の restriction NP を先行詞とする要素には、空範疇の他に、再述代名詞も含まれると考える。(19b)と(20b)の構造をそれぞれ(21a, b)に示す。(話題化位置にある構成素は、話題化位置に基底生成されていると仮定する。)

(21) a. (19b)

[_{Top} Neixie xuesheng₁ [_S wo **dou** renshi *tamen*₁]]

b. (20b)

[_{Top} Neixie xuesheng₁ [_S Lisi renwei [_S wo **dou** renshi *tamen*₁]]]

話題化位置にある構成素 *neixie xuesheng* 'あれらの学生'が *dou* によって全称量化されるという事実は、その名詞句 *neixie xuesheng* を義務的に先行詞とする再述代名詞 *tamen* '彼ら'が *dou* と同じ節に基底生成されているからであると考えれば、左方転位構文における *dou* 量化は(15)で述べた *dou* 量化の条件にとって問題ではなくなる。

なお、ここでは Cheng (1995)に従い、中国語の話題化構文は左方転位であると考え、(19a)と(20a)の話題化構文についても、話題化位置にある構成素は文頭に移動するのではなく、話題化位置に基底生成されるものであると考える。その上で、音形を持たない空の再述代名詞(empty resumptive pronoun, (e-RP))を仮定し、目的語位置のようないわゆる「もとの位置」にそれが基底生成されていると考える。このように考えると、(19a)と(20a)の基底構造はそれぞれ(22a, b)のように仮定できる。

(22) a. (19a)

[_{Top} neixie xuesheng₁ [_S wo **dou** renshi e-RP₁]]

b. (20a)

[_{Top} Neixie xuesheng₁ [_S Lisi renwei [_S wo **dou** renshi e-RP₁]]]

(22)における *neixie xuesheng* 'あれらの学生'は、文頭の話題化位置に基底生成されており、主節の述語 *renshi* '知っている'の目的語位置に空の再述代名詞が基底生成されている。この空の再述代名詞は、義務的に、話題化位置にある *neixie xuesheng* 'あれらの学生'を先行詞とし、しかも *dou* と同じ節に基底生成されているので、(15)における *dou* 量化の条件にあてはまり、節を越える *dou* 量化が可能になっていると言える。

また、この空の再述代名詞を仮定することで、(23) (= (7))のような、話題化位置にある名詞句と、目的語位置にある名詞句が同一指示の関係でないような場合でも、*dou* 量化が可能であるという事実も説明できる。

- (23) a. 那些 水果, 小明 都 只 吃 皮。
neixie shuiguo, Xiaoming *dou* zhi chi pi.
 あれら 果物 Xiaoming DOU だけ 食べる 皮
 'あれらの果物'について、小明が『どれの果物でも』皮だけ食べる。'
- b. 那些 水果, 我 知道 [小明 都 只 吃 皮]。
neixie shuiguo, wo zhidao [Xiaoming *dou* zhi chi pi].
 あれら 果物 私 知る Xiaoming DOU だけ 食べる 皮
 'あれらの果物'について、小明が『どれの果物でも』皮だけ食べる
 ということが分かる。'

(23)において、話題化位置にある *neixie shuiguo* 'あれらの果物'と目的語位置にある *pi* '皮'は、「全体」と「部分」の関係をなしているので、(23)の構造は(24)のように仮定できる。

- (24) a. (23a)
 [Top neixie shuiguo₁ [s Xiaoming *dou* zhi chi [NP [e-RP₁] pi]]]
- b. (23b)
 [Top neixie shuiguo₁[s wo zhidao[s Xiaoming *dou* zhi chi [NP [e-RP₁] pi]]]]

(24)において、*neixie shuiguo* 'あれらの果物'は、話題化位置に基底生成されており、*chi* '食べる'の目的語位置に、*pi* '皮'を限定修飾する空の再述代名詞がある。このように考えると、全称量化される名詞句を先行詞とする要素(空の再述代名詞)が *dou* と同じ節に基底生成されているので、(15)で主張した条件と矛盾することなく、*dou* 量化が許されるという事実が捉えられる。

本節で論じた話題化構文(左方転位構文)における *dou* 量化の事実をふまえると、(15)で述べた *dou* 量化の条件は次のようにまとめることができる。

- (25) 節を越える *dou* 量化が可能であるためには、全称量化の restriction NP は *dou* と同じ節に基底生成されていなくてもよいが、その restriction NP を先行詞とする要素 (空範疇、再述代名

詞、空の再述代名詞) は *dou* と同じ節に基底生成されていなければならない。

4. *dou* 量化

4.1. *dou* による preverbal 位置への移動

本節では、節を越えない *dou* 量化を中心に見ていく。そして、*dou* 量化に関わる全称量化の restriction NP が、移動することによって *dou* に先行する位置に現れると主張する。

まず、節を越えない *dou* 量化に関して、全称量化の restriction NP が主語位置にある例と preverbal 位置にある例をそれぞれ(26a, b)に挙げる。

(26) a. 這些 學生 都 認識 李四。

zhexie xuesheng *dou* renshi Lisi.

これら 学生 DOU 知る Lisi

'これらの学生は『皆』Lisiを知っている。'

b. 李四 這些 學生 都 認識 *e*。

Lisi zhexie xuesheng *dou* renshi *e*.

Lisi これら 学生 DOU 知る

i 'Lisiはこれらの学生『全員』を知っている。'

(ii 'Lisiについて、これらの学生『全員』が(Lisiのこと)を知っている。')

(26a)において、全称量化の restriction NP *zhexie xuesheng* 'これらの学生' は述語 *renshi* '知っている'の意味上の主語であり、*dou* があることによって「これらの学生『全員』が」と解釈される。(26b)は、二通りの解釈が可能であり、一つは *zhexie xuesheng* が *renshi* の意味上の目的語となる解釈((26b-i))であり、もう一つは *zhexie xuesheng* が主語となる解釈((26b-ii))である。前者の解釈では、意味上の目的語 *zhexie xuesheng* は全称量化の restriction NP であり、これが *dou* があることによって全称量化され、「これらの学生『全員』を」と解釈される。後者の場合は、前節で述べた話題化(左方転位)構文であり、述語 *renshi* の意味上の目的語とされる Lisi が話題化位置にあり、主語とされる *zhexie xuesheng* は、(26a)の場合と同様、*dou* によって全称量化される(「これらの学生『全員』が」)。こ

ここでは、(26b)の文について、(26b-i)のような解釈 (*zhexie xuesheng* が目的語とされる場合)だけを対象として見ていく。

(26b-i)のような、*zhexie xuesheng* が *renshi* の意味上の目的語となり、*Lisi* が主語となる解釈は、*dou* が生起する場合にのみ可能である。まず、(26b)と、*dou* が含まれていない(27)の例とを比較してみよう。

(27) 李四 這些 學生 認識。

Lisi zhexie xuesheng renshi.

Lisi これら 学生 知る

a. *Lisi はこれらの学生を知っている。'

(b) 'Lisi について、これらの学生が(Lisi のこと)を知っている。')

(27)は(26b)とは異なり、一通りの解釈しかない。つまり、(27)は話題化(左方転位)構文と解釈される場合のみ容認可能であり(27b)、preverbal 位置にある *zhexie xuesheng* 'これらの学生'は述語 *renshi* '知っている'の意味上の主語としてしか解釈されず、目的語とは解釈されない。(26b)と(27)の相違から、preverbal 位置に現れる構成素が述語 *renshi* の意味上の目的語として解釈されうるかどうかは、*dou* の有無に関わっていると考ええる。

次に示すのは、*dou* が(26b)のように文に生起していても、*dou* は preverbal 位置にある目的語しか量化せず、意味上の主語を量化しないという例である。

(28) 這些 老師 那些 學生 都 認識。

zhexie laoshi neixie xuesheng *dou* renshi.

これら 先生 あれら 学生 DOU 知る

a. これらの先生は、あれらの学生『皆』を知っている。

b. *これらの先生は、『皆』あれらの学生を知っている。

(28)では、主語にあたる *zhexie laoshi* 'これらの先生'と、目的語にあたる *neixie xuesheng* 'あれらの学生'はいずれも複数形であり、可能性としては、いずれも *dou* によって量化されうるが、実際には preverbal 目的語の *neixie xuesheng* だけが *dou* によって量化され、主語である *zhexie laoshi* は量化できない(28b)。この非対称性は、*dou* が義務的に preverbal 目的語を量化

しなければならないことに起因すると考える⁴。以上より、preverbal 目的語と *dou* 量化に関して次のように記述する。

(29) 述語の意味上の目的語は、*dou* によって量化される場合のみ、preverbal 位置に現れる。(但し、話題化の場合を除く)

(29)に基づき、*dou* 量化及び全称量化の restriction NP に関して次のように提案する。

(30) *dou* 量化に関わる全称量化の restriction NP は、*dou* を支配する最初の最大投射に付加せよ。

(30)の提案に基づくと、(28)の統語構造は(31)のようになる。

(31) [Top zhexie laoshi₁ [S' neixie xuesheng₂ [S *dou* [VP e₁ renshi t₂]

(31)では、全称量化の restriction NP は目的語位置にある *neixie xuesheng* 'あれらの学生'なので、*neixie xuesheng* が *dou* を支配する最初の最大投射 S に付加する。また、ここでは、意味上の主語とされる *zhexie laoshi* は主語位置にあるのではなく、話題化位置に基底生成していると考え⁵。(26)

⁴ 「主語の量化が preverbal 目的語の介在によって阻止された」ことが原因であれば、話題化構文(左方転位構文)における *dou* 量化による二通りの解釈が許されないはずである(i)。

(i) 這些 老師 那些 學生 都 認識。

zhexie laoshi neixie xuesheng dou renshi.

これら 先生 あれら 学生 DOU 知る

a. これらの先生について、あれらの学生は『皆』知っている。

b. これらの先生について、あれらの学生は『皆』を知っている。

しかし、(i-a, b)のいずれの解釈も可能なので、(28)における主語 *zhexie laoshi* の量化は、別の構成素が介在しているからできないということではない。

⁵ この主張を支持する証拠となる事実を(i)に示す。(28)における *neixie laoshi* を、話題化位置に生起しない表現(数量詞表現と non-specific NP) *yixie laoshi* '何人かの先生'、*busha ren* '少なくない人'に置き換えると、(i)のように、文は容認不可能になる。

における *dou* 量化も同様に、主語位置にある名詞句が *dou* を支配する最初の最大投射 S に付加すると考えると、(32)のような構造になる。

(32) [S' *zhexie xuesheng*]_I [S *dou* [VP t₁ renshi Lisi]]

4.2. *dou* 量化 LF で VP が QR

最後に、*dou* が全称量化子であると仮定した上で、LF において VP 全体が QR するという分析を提案したい。全称量化される名詞句は、直接 *dou* によって量化されるのではなく、*dou* が述語を量化することによって量化されると考える。

まず、*dou* 量化には、節境界の有無と、restriction NP が主語位置にあるか目的語位置にあるかによって四つのパターンがある。それぞれの基底構造を(33)のように仮定する。(ここでは、VP 内主語を仮定している。また、網掛けの部分は全称量化の restriction NP を示す。)

(33) 基底構造

<節境界あり>

Numeration { NP₁, *dou*, E₁(*e*,*e*-RP/RP), V,... }

a. NP₁ [S *dou* [VP E₁ V]]

b. NP₁ [S *dou* [VP V E₁]]

<節境界なし>

Numeration { NP, *dou*, V }

c. [S *dou* [VP NP V]]

d. [S *dou* [VP V NP]]

(33)の四つの基底構造を一つにまとめたものが、(34)である。

(34) (NP₁)[S *dou* [VP NP/E₁ V]]

(NP/E はここでは VP 内に基底生成する要素であるということだ

(i) { ??一些老師/*不少 人 } 那些 學生 都 認識。

{ ??yixie laoshi/ *bushao ren } neixie xuesheng *dou* renshi.

幾つか 先生 少ない人 あれら 学生 DOU 知る

'あれらの学生『皆』を知っている{先生が何人いる/人は少ない}。

けを表し、それが主語位置か目的語位置かという指定はされていない)

(30)に基づき、全称量化の restriction NP (NP, E)が *dou* を支配する最初の最大投射へ付加する((35))。

(35) 統語構造
 $(NP_1)[c \text{ NP}/E_1 [s \text{ } \mathit{dou} [_{VP} t \text{ V }]]]$

さらに、*dou* は全称量化子であるので、*dou* が補部を取る VP 全体が LF において *dou* と共に QR する。May(1977)に従い、QR した要素は最初の S に付加すると仮定すると、(35)の LF 構造は(36)のようになる。

(36) LF 構造
 $NP_2/E_2 [2 [s' [\mathit{dou} [_{VP} t_2 \text{ V }]]]_3 [3 [s t_3]]]$

(S'は syntactic structure で作られた node)
 (LF で QR によって作られた node)

λ 演算子と変項を仮定し、移動の痕跡 *t* が変項 *x* に置き換わる規則と、S に付加した index が、関係節のときと同様に λ になる規則が適用する。全称量化子の *dou* が λ に写像し、(36)で示された LF 構造は最終的に次のような SR になる。

(37) SR
 $[[NP_2]]/[[P_2]] \ \& \ \lambda_{x_2}. \ ([[V]] (x_2)) (\lambda_{x_3}. \ x_3 \)$

(37)における「 $([[V]] (x_2)) (\lambda_{x_3}. \ x_3 \)$ 」は、 λ の restriction が $[[V]] (x_2)$ であり、どの $[[V]] (x_2)$ でも、イベント x_3 に代入すると真になるという意味である。このような $[[V]] (x_2)$ の集合にある x_2 は λ_{x_2} によって束縛されなければならない。具体例により、以上のような解釈の派生を示す。

(38) 那 五個 學生 都 認識 李四。

nei wuge xuesheng dou renshi Lisi.

あの五人 学生 DOU 知る Lisi

'あの五人の学生が『皆』Lisiを知っている。'

(39) numeration : {neiwuge xuesheng, dou, renshi, Lisi}

基底構造 : [s dou [VP nei wuge xuesheng renshi Lisi]]

統語構造 : [s' nei wuge xuesheng [s dou [VP t renshi Lisi]]

LF 構造 : [s' nei wuge xuesheng₁ [1 [s' dou [VP t₁ renshi Lisi]]₂ [2 [s t₂]

SR : neiwuge xuesheng₁ &λx₁. ([[renshi]](Lisi)(x₁))(λx₂. x₂)

「x₁がLisiを知る」という集合において、そのようなx₁に当てはまるものはあれらの五人の学生である」

あれらの五人の学生がいて、「学生1がLisiを知ってる」、「学

生2がLisiを知っている」、「学生3がLisiを知っている」、

「学生4がLisiを知っている」、「学生5がLisiを知っている」

といったイベントがどれも真である。

(38)の意味は、「xがLisiを知っている」というイベントがすべて真でなければならないというものであるので、「あれらの五人の学生」がそれぞれ「Lisiを知る」というイベントに当てはまることによって、結果的に「あれらの五人の学生『全員』がLisiを知っている」という解釈になるのである。

5. おわりに

本稿では、中国語における、*dou*による名詞句の全称量化について考察した。節を越える*dou*量化においては、全称量化のrestriction NPそのものは*dou*と同じ節に基底生成されなくとも、全称量化のrestriction NPを義務的に先行詞とする構成素(空範疇、(空の)再述代名詞)が*dou*と同じ節に基底生成されていなければならないと主張した。

また、*dou*量化の統語操作と意味に関して、syntaxでは、*dou*量化に関わる名詞句が移動し、LFでは*dou*が付加しているVP全体がQRするということを提案した。LFにおいて、移動の痕跡が変項に置き換えられ、*dou*が述語を量化することで、変項を束縛する名詞句が結果的に全称量

化される解釈になるのである。

最後に、*dou* 量化に関して、*dou* が先行する名詞句を直接量化するのではなく、*dou* が付加する動詞句を量化するという分析を試みたが、*dou* 量化が述語の量化であると分析することが妥当かどうかなどの問題は、今後の課題にしたい。

謝辞

本論文を執筆するにあたり、二名の匿名査読者から貴重なコメントをいただきました。また、山田絵美氏にはネイティブチェックを快く引き受けていただきました。記して感謝いたします。なお、本論文に見られる一切の誤りはすべて筆者の責任でございます。

参考文献

- Anand, Pranav and Tang, Danni (2004) Redistributing *dou*: Cleaving Exhaustivity from Distributivity. *WCCFL 23 Preceedings*, ed. Vineeta Chand et al., Somerville: Cascadilla Press.15-28.
- Cheng, L.-S Lisa (1991) *On the Typology of Wh-questions*. PhD Dissertation. Cambridge: MIT Press.
- Cheng, L.-S Lisa (1995) On *Dou*-Quantification. *Journal of East Asian Linguistics* 4. 197-234.
- Huang, C.-T James (1982) *Logical Relation in Chinese and the theory of Grammar*. PhD Dissertation. Cambridge: MIT Press.
- Lee, H. Thomas (1986) *Studies on Quantification in Chinese*. PhD Dissertation. UCLA
- Li Yen-Hui Audrey (1990) *Order and Constituency in Mandarin Chinese*. Kluwer Academic Publishers
- May, Robert (1977) *The Grammar of Quantification*. PhD Dissertation. Cambridge: MIT Press.
- Wu, Jianxin (1999) *A Minimal Analysis of Dou-Quantification*. University of Maryland, College Park
- Xu, Liejion and D.Terence Langendoen (1985) Topic structure in Chinese. *Language* 61.1-27
- 湯廷池 (2000) "華語的'連...都'結構" 《漢語語法論集》。台北: 金字塔出版社。59-79.

***Dou*-Quantification in Mandarin Chinese**

Peiling HSU
(Kyushu University)

In this paper, I focus attention on the facts about cross-clausal *dou*-quantification through the observations of Chinese *resultative expression* (*de*-phrase), control verbs and left dislocation (topicalization). I suggest that there is an empty category or (empty) resumptive pronoun, which must be generated in the same clause with *dou* and must be obligatorily co-indexed with the antecedent being interpreted as universal. Based on this assumption, we gain a further generalization on *dou*-quantification about locality.

Another central observation made in this paper is that a preverbal object (excluding topicalization) can only be accepted when co-occurring with *dou* and interpreted as universal. Based on this, I suggest that the NP (also an empty category) related to *dou*-quantification must be extraposed to the position by A'-movement in syntax. In addition, I argue that the universal reading does not result from the NP's being quantified by *dou* but the *dou*-quantification on the predicate (VP). I suppose here that *dou* and the VP adjoined by *dou* both undergo QR at LF. This paper also shows a possible analysis of *dou*-quantification on predicates rather than on NPs.

(受理日 2006 年 3 月 31 日 最終原稿受理日 2006 年 11 月 27 日)